

(お知らせ)

平成24年2月1日
京都市保健所
担当 保健衛生推進室保健医療課
TEL 222-4421

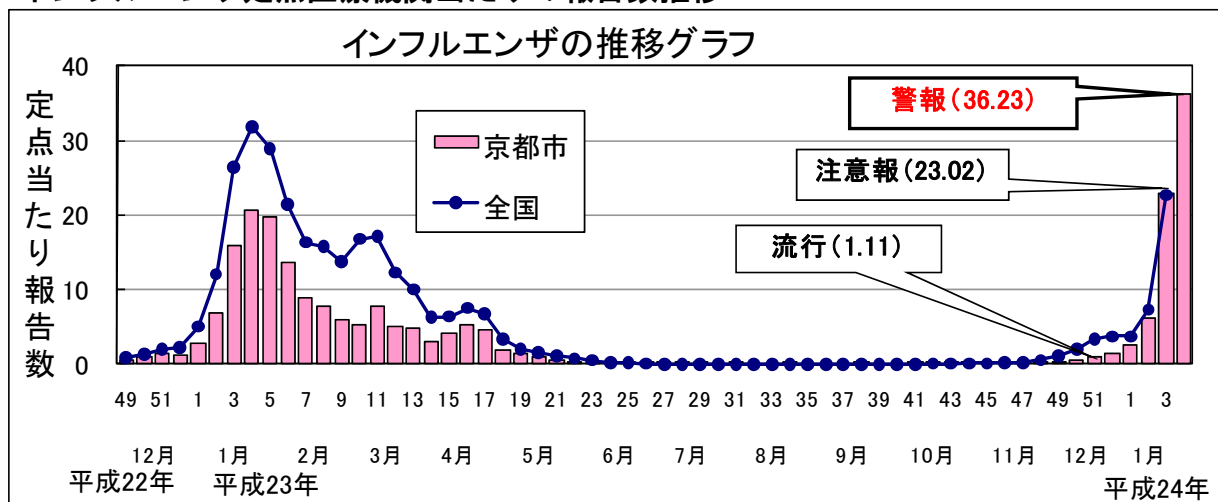
インフルエンザ流行発生警報の発令について ～京都市域において7年ぶりに警報レベルとなりました～

京都市域において、インフルエンザ定点医療機関当たりの報告数（速報値；1月23日～同29日）が、**7年ぶりに（平成21年に発生した新型インフルエンザを除く）警報レベルとなる「30」を超え、「36.23」となったことから、インフルエンザ流行発生警報を発令しました**ので、お知らせします。

また、京都市新型インフルエンザ対策情報室では、本日、対策会議を開催し、インフルエンザの流行を抑制するため、インフルエンザに対する注意を呼びかけることを決定し、関係各機関に周知しました。

市民の皆様におかれましては、引き続き、感染予防対策を徹底していただくとともに、インフルエンザの症状がみられたときは早めの受診を心がけていただきますようお願いいたします。

1 インフルエンザ定点医療機関当たりの報告数推移



| 感染症発生動向調査報告週 | 定点当たりの報告（患者）数 | レベル | （対前週比） | 全国（参考） |
|-------------------|---------------|---------|--------|----------|
| 第51週（12/19～12/25） | 1.11 | 流行 ↓ | 198% | 3.34 |
| 第52週（12/26～1/1） | 1.47 | | 132% | 3.75 |
| 第1週（1/2～1/8） | 2.70 | | 184% | 3.76 |
| 第2週（1/9～1/15） | 6.14 | | 227% | 7.33 |
| 第3週（1/16～1/22） | 23.02 | 注意報 | 375% | 22.73 |
| 第4週（1/23～1/29） | 36.23 | 警報 | 157% | 明日以降判明予定 |

※「インフルエンザ定点医療機関当たりの報告数」は、京都市内に64あるインフルエンザ定点医療機関からの1週間の総報告数を、定点医療機関数の64で除した値で、1週間の定点医療機関当たりの平均患者数のこと。

※「流行発生警報」は、国立感染症研究所が指標等を定めているもの。1週間の定点当たりの報告数が指標「30」以上の場合に発令し、今回の警報は、「大きな流行が発生又は継続しつつあると疑われる」ということを意味します。

2 インフルエンザ流行への対応

流行をできる限り抑制するためには、市民の皆様一人ひとりが、以下のことを徹底することが大切です。

(1) 予防対策の継続

「石けんによる手洗いの励行」、「十分な睡眠・栄養をとる」、「咳エチケットの実践」等を徹底しましょう。

(2) 早めの医療機関への受診

インフルエンザの症状がみられたら早めに医療機関を受診しましょう。
特に、小児や高齢者では重症化することがありますので、注意が必要です。

※ インフルエンザの症状

38℃以上の急な高熱が特徴で、全身倦怠感・筋肉痛等の全身症状とともに、咳・鼻汁等の上気道症状がみられます。通常のかぜと比較し、全身症状が強く現れます。

3 過去の注意報・警報発令レベルに達した時期（報告週）

| 年度 | 注 意 報 | 警 報 | 報告数ピーク値 | |
|----|--------------|--------------|---------|--------------|
| 16 | 17年 2月(第6週) | 17年 2月(第9週) | 39.15 | 17年 2月(第9週) |
| 17 | 18年 1月(第2週) | — | 19.91 | 18年 1月(第4週) |
| 18 | 19年 2月(第6週) | — | 18.41 | 19年 2月(第9週) |
| 19 | — | — | 9.68 | 20年 1月(第5週) |
| 20 | 21年 1月(第3週) | — | 27.51 | 21年 1月(第4週) |
| 21 | 21年10月(第41週) | 21年11月(第44週) | 31.35 | 21年11月(第44週) |
| 22 | 23年 1月(第3週) | — | 20.73 | 23年 1月(第4週) |
| 23 | 24年 1月(第3週) | 24年 1月(第4週) | 36.23 | 第4週速報値 |

■ は、新型インフルエンザ（A/H1N1pdm）の流行によるもの。